資料1

令和7年度委員会の振り返り

令和7年度の検討概要

- ガイドラインの改定に向け、以下の項目について調査・検討を実施
- 委員会を２回、計画・データWGを３回実施
- 「データ活用の手引き」を策定（令和８年１月）

	項目	取組
計画	**①自転車ネットワーク計画の考え方を整理**	・国内外の事例調査
	②データ活用による自転車ネットワーク計画の検討方法を整理	・**「自転車ネットワーク検討におけるデータ活用の手引きVer1.0」策定（令和８年１月）** ・ネットワークデータの作成（直轄国道分を先行）
整備	**③道路空間再配分の手法の充実**	・事業者へのヒアリング等を踏まえた各手法の留意点等の整理 ・既存事例の調査結果等を踏まえた導入方法等の整理
	④道路空間再配分の検討方法の整理	・**「道路空間再配分による自転車通行空間の整備事例集」の策定（令和８年３月国土技術政策総合研究所）** ・既存事例の調査結果等を踏まえた再配分の検討方法の整理
	⑤自転車専用通行帯の停車抑制対策	・既存事例の調査や実験結果等を踏まえた、停車抑制対策の検討

令和7年度委員会における主な意見

	取組	主な意見
計画	①計画の考え方	・ガイドラインの総論の部分では、**ネットワークの必要性、計画策定の効果、ネットワークの基本的な考え方などを記載すべき**。 ・**高齢者や子供の自転車利用も含め、街の未来の姿を示した上で**ネットワーク計画を策定する必要がある。 ・**第３次自転車活用推進計画におけるビジョンと整備を紐づけて**、自治体が高みを目指すようにしてほしい。 ・ガイドラインの総論に関しては、**自転車活用推進計画や地域公共交通計画との整合性が重要**である。
	対象の重点化	・**全ての道路にネットワークを設けるのではなく、自転車の通行を誘導するネットワークを定めて、そこに安全で快適な自転車通行空間を設ける**ものである。 ・ネットワークの対象者は、**実際には利用目的が混在すると考えられ、優先順位を判断する必要**がある。 ・地方都市では通学路をベースに地域の自転車ネットワークを積み重ね、高齢者や観光客に展開する積み上げ方が必要。**優先順位を持たせることが大事**。 ・**高齢者の自転車利用を踏まえ**、地域単位や学校単位でのエリアという考え方も示せるとよい。
	②データ活用	・**ネットワークの検討にこそデータが重要**であり、**データを活用して客観的に示すことでネットワーク整備の強力な後押し**になりうる。 ・データは万能ではないが、まずは**データ活用に取り組まないと何も始まらない**。 ・自治体には**データの利用も購入もハードルが高い**。**アンケート等で簡単に実態を把握する方法もある。** ・自治体としては、データで何がわかるのかなど、**メリットが分かりやすく示されるとよい**。 ・データの用途として、**自転車活用推進計画の指標の設定に活用することが重要**である。
整備	③空間再配分	・**空間再配分の検討手順の整理**は大変重要。 ・**交差点部の自転車通行空間確保のため、交差点部の植栽帯を縮小する方法**を考えている。 ・植栽帯の削減については、**植栽帯と自転車のいずれも脱炭素の側面がある**ことから、ガイドラインでは柔軟に対応できるとよい。 ・歩道空間の再編の際には、自転車通行空間の専用化と併せて、**交差点前後で利用者が迷わずネットワークを辿っていける空間設計の指針**を示してほしい。
	④停車抑制	・**駐停車問題について、極めて重要な課題**で、まだ解決しているとは言えない。 ・自転車専用通行帯だけでなく、矢羽根型路面表示の上の駐停車についても対策が必要。 ・車道混在は、停車を認めつつ自動車と共存するものとして考えられた整備形態である。
その他		・自転車の利用促進のためには、歩道通行の危険性等ネットワークの必要性と自転車の利便性を合わせて伝える必要がある。